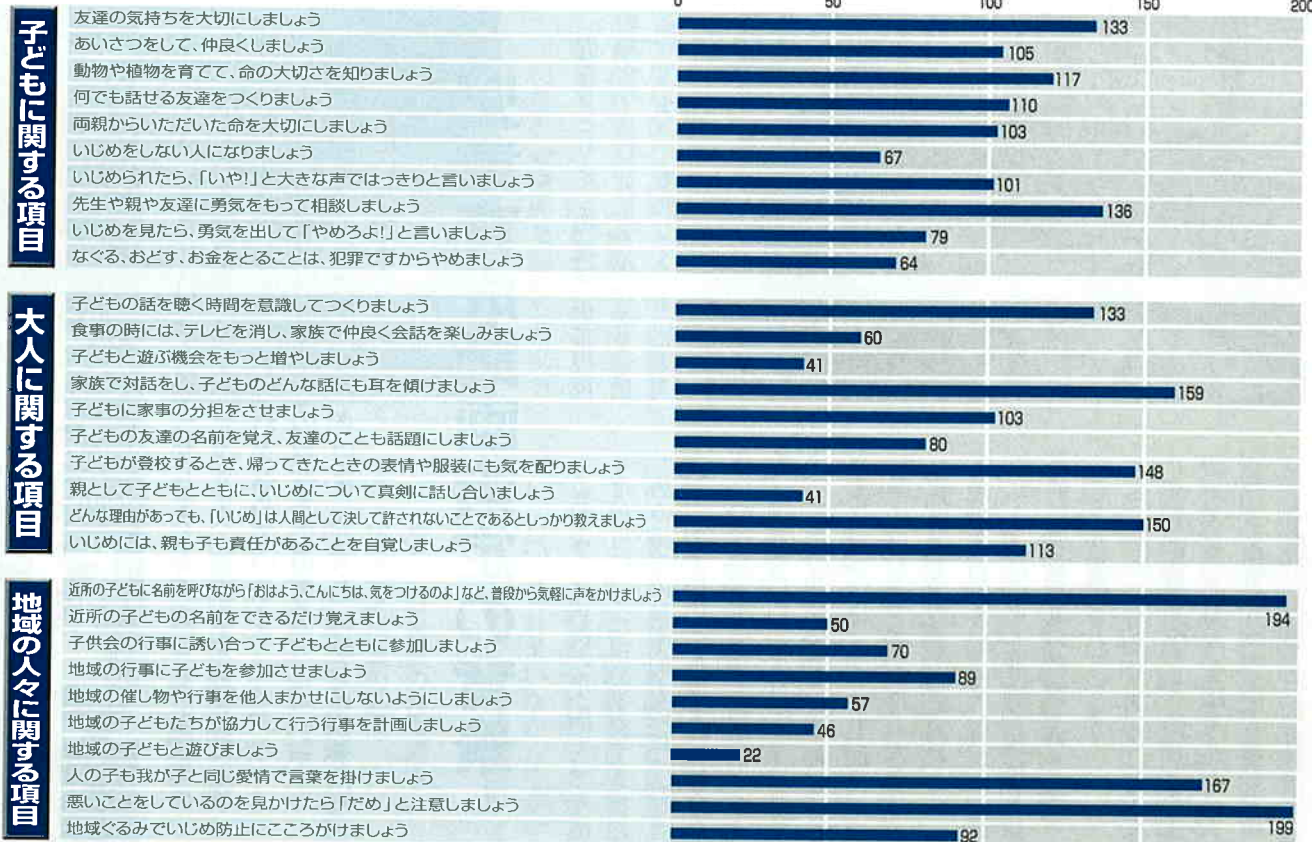


いじめ問題シンポジウム

「大人は今何をすべきか」

●と き／2月21日(土)、14時から [討論者]いじめ根絶対応委員会委員
●ところ／中央公民館 [問い合わせ] 教育センターへ ☎56-2299

アンケート結果



皆さんのご意見

アンケートの最後に、「ご意見の欄を設けたところ、81件が寄せられました。主なものを紹介します。たくさんの方の貴重なご意見、ありがとうございました。」

- 3歳位から人に迷惑をかけない人間として育てることが親の責任です。子どもの悪行は親の責任です。
- 子どもはいつまでも子どもだと思いがちですが、意外に親は年齢を重ねている自己満足で、日々を送っています。
- 子どもは親の鏡だと気づいたところです。
- 最近、悪い子どもを見ても注意できないという親が多いようですが、私は子どもに

子どもに対する提言

- 友だちの気持ちを大切にしましょう
- 先生や親や友だちに勇気を持って相談しましょう

大人に対する提言

- 家族で対話をし、子どものどんな話にも耳を傾けましょう
- いじめは人間として許して許さないことであるとしっぴり教えましょう

地域に対する提言

- 名前を呼びながら「おはよう」「こんにちは」など、普段から声をかけましょう

問い合わせ

教育センターへ ☎56-2299

何を言われようと愛情を持って注意するように努めています。

- 地域内の交流がなく、個人のゆとりが少ないうえ、人間に関心が薄れている一因のようです。
- できるだけ近所の子どもたちにあいさつをするようにしています。あいさつは基本で、子どもたちにも教えてやっています。
- 最近の子どもたちは、習い事があるせいかとても元気がなく、淋しい。
- この頃子どもたちの態度を見て、本当にいじめなのか、悪ふざけでやっているのか区別がつけられなくて、どのようにアドバイスしていいかわからないときがあります。

いじめ提言アンケート結果報告

いじめ提言が決まりました

狭山市では、一昨年5月、いじめ問題解決のために「いじめ根絶対応委員会」を発足し、心のふれあい相談室や教育センターでの相談事例、県内での状況をふまえ、あらゆる部門から専門家を招いていじめ根絶と対応について話し合ってきました。その中で市民の皆さんとともに作成する「いじめ提言」のアンケート調査を昨年9月に実施し、337通の回答がありました。そしてその結果をもとに子ども、大人、地域のあり方について考えてきました。今回はこのアンケートの調査結果を報告し、決定された提言をお知らせします。

提言作成にあたり、次の5つの視点(重要点)をもとに調査結果を考察しました。

- 1 学校と児童、生徒の関わり
- 2 子ども同士、友だち同士のあり方
- 3 家庭での子どもへの接し方
- 4 地域の大人のあり方
- 5 子どもを取りまく社会のあり方

1 学校と児童、生徒の関わりについて

アンケートの結果から、市民のみなさんは圧倒的に「人の気持ちが分かる子ども」の育成を希望していることが分かります。さらに、「相談のできる子ども」が続きます。これをもとに委員会では、学校教育の中で相談できる環境づくり、気軽に相談できる相談体制の整備充実と雰囲気づくりなどに力を注ぐことが大切であると考えています。

2 子ども同士、友だち同士のあり方について

子ども同士、友だち同士の関係は、学校外でも地域の中でも、切り離す

3 家庭での子どもへの接し方について

家族の対話の重要性が、アンケート結果からうかがうことができます。「普段よく話す子どもが急に無口になった。」このような場合、子どもに何か変調があったことがうかがえます。ここでは「普段からの対話が重要である」ということを、家庭でしっかりと理解しなければなりません」と言えるでしょう。対話のある家族関係の中で「いじめは絶対に許されないことだ」と、子どもに学ばせる機会

4 地域の大人のあり方について

地域においても、人間関係を作るきっかけは「あいさつ」です。あいさつを中心に普段から声をかけあうことで相互の信頼感が生まれ、その信頼感によって初めて「だめよ。」という制止の言葉掛けに意味が出てきます。アンケート結果では、「あいさつをしながら気軽に声をかける」ということが圧倒的に支持を得ています。また、「注意しましょう」「同じ愛情で言葉掛けしましょう」という項目も高い支持を得ています。大人から積極的に、地域の子どもたちとの信頼関係を深める努力をすることが大切なのではないでしょうか。

5 子どもを取りまく社会のあり方について

変化の激しい社会の中で、子どもたちはゆとりのない忙しい生活を送っています。そのために社会性が不足し、規範意識が低下していること



などが指摘されています。実体験を通して、社会生活上の基本的事項を育んでいく環境づくりが大切であると言えます。

これらの結果考察をふまえ、検討委員会では子ども、大人、地域に対